

第3回第3次長井市食育推進計画策定推進委員会

【日時】2024/01/23 10:00～12:00

【場所】市民防災研修室

【出席者】

◆委員：小野卓也委員、鈴木よう子委員、菅野春平委員、安部香織委員、佐藤朋江委員、
尾形良一委員、宇都久美子委員

◆事務局：健康スポーツ課安江栄養士、福祉あんしん課安達補佐、給食共同調理場安倍補佐、
消費生活センター嘉藤相談員、子育て推進課佐藤係長、地域づくり推進課吉川補佐、
総合政策課 斯波主査

農林課 梅津課長、石塚補佐、小林係長、丸山

【欠席者】横山小市委員、井上恵委員、中川純子委員、坂本晃一委員、伊藤浩呉委員、
学校教育課黒澤指導主査

【議事録】

1 開会 進行：石塚補佐

2 参事あいさつ

おはようございます。私だけが1回目2回目欠席ということで、大変申し訳ございませんでした。それぞれの委員会の内容につきましては、議事録を拝見させていただきまして、本当に皆様に活発なご議論いただき大変感謝している。食は生きるための基本的な力になりますから、そういった取り組みについては非常に大切なことだと思っている。できれば小学生の頃からちゃんと食べるものを考えながら育てていただければいいと思っておりますし、今教育委員会ではスクールコミュニティという言葉を使い始めておりまして、小学校を中心とした地域づくり、そういった地域と子どもたちの関わりというものも重要視していく状況でございますので、そこに食を取り入れて地域の食文化を大事にする取り組みが非常に大事だと皆様のご議論を拝見しながら思ったところである。皆様方のお力を仰いで計画から策定まで運んでいただければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

2 委員長あいさつ

皆さんおはようございます。本日、大変お忙しいところ皆様ご都合つけてお集まりいただきましてありがとうございます。第1回第2回と皆様方から活発なご意見をいただきまして、事務局で上手に消化していただいたものを今日の会議でもう一度検討するという次第になっている。第1回の会議は主に各課の連携。それから第2回については、この計画の周知について主にご意見をいただいたかと思うが、本日もその辺りがこの計画の中に上手く盛り込まれているかチェックしていただきまして、もうすぐ計画も総仕上げの段階なので、計画を作って来年度からうまく動かすことができますように、どのようなところを重視していったらいいか皆様それぞれご意見をいただきたい。どうぞよろしくお願いいたします。

3 事務局説明

説明に入る前に事務局より本日の議事録を作成し、ホームページ等で公開させていただく旨を説明し了承を得る。

(1) 前回委員会の振り返り (資料1・2)・・・事務局より説明

(2) 各章の具体的内容について（資料３・４）・・・事務局より説明

【質疑・意見等】

○委員長

商工会議所女性会の方でポスターなどのコンテストはどのようなことになっているのか。

○委員

まだ事務局の方には通っていないが、女性会でも皆さんと一緒に活動していきたいというのがあり、それぞれ会員と相談しながらこういったことで協力できることはないかと今後積極的に関わらせていただければと考えたところだった。

○委員長

来年度以降検討ということで。

○委員

実施になったときは実行部隊の一員としてよろしく願いたい。

○委員長

連携団体は必ずしもその事業をしなければいけないということではないということだったが、そのあたりを説明として注意書きで書いてあると、これしなければいけないのかと問われた時に説明ができる。

○事務局

連携団体のところにはそのような注意書きを書かせていただく。

4 協議

(1) 数値目標について

・・・事務局より説明

【質疑・意見等】(1)数値目標について

○委員

13番につきまして、行事食や郷土料理の提供回数ということだが、昔からずっと行事食というのを大事にしているし、行事食というのは大体年に1回しかない。例えばお正月で言えば七草を使った給食、鏡開き給食、ひな祭り、こどもの日、七夕。そして冬至に向かってお正月までいくわけだが、1年に1回しかないものを増やすというのがまず無理である。また郷土料理というものも、それぞれ意味があってこの時期にこれをこういう意味で食べていたんだということをやるとすればやはり年に1回。山菜ものであれば春先であるし、冬至かばちは冬至の日で、年1回に集中してやっている。それを月に何回もするわけにはいかない。ひょう干しがもし手に入れば、ひょう干し煮もいいがそれも年に1回が原則となってくると、目標に掲げていただくのはいいがもう横ばい。減少させないということしか私たちにはできない。

基本目標のNo.1の現状で令和4年度の実績で上げている5件というのはラジオ放送だけ取り上げての5件なのか。

○事務局

はい。

○委員

何をカウントするのだが、ホームページ等における食育関係の情報発信とあるが、調理場でもおたよりを毎月発信で言えば、学校給食と幼児給食の部分だけでももう24件あるし、カウントできていないがおらんだラジオで何度も栄養士が話されている。そのほか何を食育と捉えるかによってもう20件どころか年間に100件ぐらいは取り上げていると思う。それを食育だと認識しているのかというのもすごく問題がある。食育はとってもすごいことじゃなくて、その辺に転がっていることが全部食育なので、それを数値目標として立てるのはちょっと難しいのでは。もう何百件レベルで上がってくるのではないかな。

農産物の使用割合は前回でお話させていただいたので、それをわかっていた上で掲げるのであればそれは構わないし教育振興計画と同じ数値ということで頑張って邁進していくという気持ちで関係機関と調整していきたい。

○委員長

使用割合につきまして、上げるというのが目標だとしたら厳しいという意見があった。あと、発信回数等についても話が合った。この辺りも含めて皆様方で話し合っていたきたい。

○参事

全体的なことだが、この表の現状というところにいつの時点のものか書いておいたほうがわかりやすい。

○委員長

現状というか最新データということで。

○事務局

資料5の裏面を見ていただきたいが、数値の出典というところに載せておりまして、そこで令和4年の数値からなど、例えば、健康課のアンケートだったら令和5年にとったものなので令和5年ということで書かせていただいているが、こちらの現状のページにもわかるように入れておきたい。そして先ほど委員の方からご指摘あったNo.1だが、確かにカウントの方法が難しく、ここで計上している5件は、農林課としてラジオ放送した件数となっている。関係する課の皆さんから照会をかけて掲載件数をお聞きしたわけではなかったの、そこまでを含めていった方がいいと改めて思った。ご負担のかからないようにと農林課の中で発信した件数だけをカウントしたところであったが、その辺もご意見いただきたい。

○委員長

まず何の話をするかというと、まずこの目標でいいのか。これはあんまり関係ない、或いは他にこういうのがあった方がいい、それから余計であるというようなことと、それから数値。数値目標として、これは本当に高望みし過ぎてるのではないかとか、或いはその逆で甘すぎるのではなど。近くの方とグループを作って話をしてみてください。

【グループで話し合い】

○委員長

では、グループで話し合ったご意見の発表をお願いします。

○委員

基本目標3に意見が集中しまして、目標No.7の特別栽培米の作付面積についてだが、特別栽培米がどのようなものか皆さんわかっているのかなというところが1つございまして、お米を作る際に県で決まっている基準で農薬を使ってもいいけど、特別栽培米だったら半分の基準以下にしてくださいというのが特別栽培米なんです。化学肥料100%じゃなくて、化学肥料を50%抑えて、有機肥料を50%入れてくださいというのも、特別栽培米の基準に該当するが、人によっては、20を10に減らして半分だからいいねという人がいれば、中には10も使っていると

考える人もいるので、意識としてみんなどう思っているのかわからないところがまず第一。あとはNo.7、8は全部共通するが、農家の減少に歯止めがかかってない中で、これを現状維持することが不可能だとわかった上で目標を上げるということがまず不可解なところがある。ただ、このように計画を作ろうとしている中で、下に下がっていくことがわかっているけど下へ下がっていくから諦めましょうとなったらやっている意味がなくなってしまう。現状維持で精一杯な状況をわかっていながら農林課さんで苦慮した結果、ちょっとだけ上げる数値目標を提案しているというのがわかって苦労されてるなというのは我々も理解できる。新規就農者に関しても、3.2人から目標は4人かどうかということで、補助金を出すということを農林課としてやっているが、もっといろんなアクションができればいいという話もグループ内で出された。

○委員

基本目標2に関しては上げる目標でいいと思うが、基本目標3は現状維持が精一杯なところがあって、農家を増やす、新規就農者数を増やすといってもプラマイなのでは。辞めていく方もいっぱいいる中で、4人増やしたところでというところがある。基本目標2に関しては、高齢者に関する目標もあっていい。

○委員

基本目標4、13番のところを重点的というか、児童センター方面から話させていただいた。学校給食及び幼児給食における幼児食や郷土料理の提供回数についてということにおいては、先ほどあったように、行事食はもう年間数えれば出てくるということで省いてもいいのではないかと。ところと、郷土料理の提供回数においては、親子であったり祖父母であったり一緒に食すというところが必要なのではないかと。例えば、郷土料理を幼児給食に提供して、それを祖父母参観の時に一緒に食べる。じいちゃん、ばあちゃんと孫で、これはこういう長井の郷土料理なんだよという話をしながら食べる機会があればいいのではないかと。それをするにあたって、児童センターの祖父母参観が各児童センターでまちまちなので、年間行事を作成するにあたって、市と給食センターないし、各児童センターの方で、ここでこういうことをするのでいかがですかと。ただそれは一緒に足並みをそろえないとできないのではないかとということもあるので、郷土料理を親子で一緒に作ってみるというのはどうか。それを学校へお願いするか、コミセンにお願いして、どっちを巻き込んでいくかという話をさせていただいたが、どこが主となって調理する場を設けるか決まらないまま時間になってしまった。

○委員

13番に関して、学校給食及び幼児給食と限定せずに、広く行事食や郷土料理を子供たち、もしくは子でなくても長井市の皆さんに提供したり、自分で体験したり、いろいろ経験するっていう場を設けたという回数を掲げてはどうか。各課それぞれいろんなことができると思う。例えば調理場だったら児童センターでやっていこうということにして、祖父母参観で郷土料理と一緒に楽しんだり、コミセンにお願いして地域のおじいちゃんおばあちゃん、子供たちを呼んで一緒に郷土料理や行事食の調理をしたり。そういう学校給食や幼児給食に縛られない実施回数でもいいという話も出たが最後までいけずに終わった。

○参事

給食の提供回数じゃなくてそういう取り組みを行った回数、例えば、各地区ごとにやっていることもあるので各地区ごとに回数を拾うとか、児童センターで回数を拾うとかでもいい。食育は食べるだけではなく作ることも伝えていかなければならないのでその方が納得いくのでは。

また、最初お話があったように、基本目標の1-1だが、数えれば数え切れなくらいあるのであれば、逆にこの括弧書きに書いてある関係団体の取り組み紹介を年間12回やりましょうとかそういう取り組みの方がいいのではないかと。

○委員長

基本目標1につきましては、もっと細かく分けないとカウントできないということで、5年後

に比較する上でも、何を数えていくのかわからなくなると困るので、農林課発信のラジオ回数だったらそう書き変えておく。給食調理場の調理場だよりだったらそのように書いて、それを増やすということではないと思うが、毎年減らさずにやっていくという目標の立て方もある。という意味で、この基本目標のNo.1と2はもっと細かく、情報発信の中の1-1、1-2とか1-3というように、農林課発信のラジオ回数、それから調理場だよりの回数とか分けていくと、数えられる範囲内で出てくるのではないか。全部足してしまうと何百件となってしまうので、足さない前の数字で出していく。同じようにこの2番につきましても、コミュニティセンターの活動も何回というように現状段階で、これが何かになったらいいねという風にしてそれはそれで分けて、2-1、2-2、2-3としていったらいいのではないか。その時に、PTAの活動に関して市のPTA連合会とか入ってない。そのあたり相談しながらだが、PTAでの食育関連の行事というのは今コロナで殆どやっていない状態。コロナ前は餅を食べたりやっていたので、そういったものを復活していく機運やきっかけにするためにPTAの中での食育関連の事業というようなカウントの仕方もあるのかなと。PTA連合会の理解が得られれば、そういう目標も入れてもいい。

それから基本目標2については、こういったところに出たものをこの施策に結びつけていったらいいのではないか。今メタボの割合を減らす目標を掲げているならば施策の中に何をしていくかというようなことがあってもいいのでは。ヘルスマーターの購入助成というのが出てきたが、ここから今度導き出される施策ということで、まだ考えついてないのが出るかもしれない。健康スポーツ課で前に何かするとポイントが貯まるマイレージというのが継続しているのであればその目標の中に発行件数という形で項目に入れてもいい。メタボだけではなく、他にもいろんな健康管理があると思う。

あと13番に関することでそちらのグループから出た後に関連して思ったことで、市民アンケートは13番に関してはした方がいい。こういう食材あります。食べたことがある、食べたなど項目を付けてもらってどれぐらい郷土食、郷土野菜を食べているのかというようなことを聞くことはありかと思う。聞かれると食べてなかったわこれと意識的な効果もあると思うので、そんな形でこの数値目標の立て方もある。実際何かするのが難しいとしたら、そのようなアンケートで調べて数値を上げる。

ということで、皆様にたくさんご意見を出していただきましてありがとうございます。意見を聞いて、この数値目標に関して何かございましたらどうぞ。

○委員

数値目標だが上に上げるものを掲げなきゃだめなのか。

○事務局

そんなことはない。なくさない、続けていくという目標もありかと思う。

○委員

農家として、3番に関しては絶対に不可能と思う。米農家は減っていくし、新規就農者は若者がいない。店舗だって潰れるし、農作物がなければ5億円になんてなりようがない。もう10年後、20年後、30年後は農業をやってない地域がぼつぼつと絶対出てくる。田んぼが維持できないため。農家に見ればこの数字を出されたときに不可能だと一目瞭然であるが、それを上げていこうとすると、農林課と農家でこれをやっていく、対策を打つという意思表示になるが、そんな負担を今の農林課や市役所ができるかどうかでいえば当然無理だと思う。能力の問題ではなくてあまりにも規模が大き過ぎる。なので現状維持ということを理想としつつ、減少を抑えていく方向にはっきりと数字として出した方がいいのでは。数値目標を下げたことに関して批判をする人も当然いると思うが、事実として不可能だということを農林課に携わってる方々ならわかるわけじゃないですか。我々の側から今後のことを考えていただきたい。理想と目標は違うので現実を見た方がよいと思う。

○委員長

現状維持でも厳しいとわかっているが、目標値を下げると下げることが目標になってしまうの

でそうはならない方がいい。

○委員

我慢して5年だったら現状維持で踏ん張れると思うが5年ごとに計画の見直しがあったとして、じゃあ令和15年にどうなっていますかとなったら当然数値は下がる。なので、上げるということはもう現実的には考えられない状況である。

○委員長

実績でちょっと上がっているものもあるようだ。

○委員

実際にここ過去5年間でこの数字がどれか1つでも上がっているのであれば、ここは上げていく方向でいきたいと思いますのはわかるが、どうなのか。

○事務局

レインボープラン認証農産物の認証面積は、皆さん頑張っていらっしゃって少しずつ伸びているので、この流れをなるべく維持したいと思っている。特別栽培米の栽培面積も過去に比べればどんどん増えている。ただ、最近若干横ばいかちょっと下がっている状況ではあるが、市としては特栽培の推進を引き続きしたいと考えているところもあって、農林課として頑張っていきたいところだった。新規就農についても、これからますます農業者が減る中で新しい人やいろんな担い手の人を増やしていきたいという思いもあり、地域おこし協力隊や新規就農者など、様々なところで予算を取っていて、ここも頑張っていきたいので大幅な増加ではないがこのぐらいであれば目標としていけるかと考えている。農家さんと一緒に頑張りたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

○委員長

これを踏まえて、目標値などの設定は現状維持に限りなく近い数字だということは理解した。その中でどのような書き方があるのか検討いただきたい。

（2）市民の取り組み目標について（素案の第5章）・・・事務局より説明

○委員長

第5章について項目の過不足がないか、また計画の周知方法について近くの方とグループを作って話をしてみてください。

【グループで話し合い】

○委員長

では、グループで話し合ったご意見の発表をお願いします。

【質疑・意見等】（2）の市民の取り組み目標

○委員

文言について、男性も料理教室をしようではなく、みんなでというのはどうか。

議題は周知についての方法ということだったが、ホームページも市報もあやめレポもダメであれば何があるのか話が進まなかった。見る人は何に出しても見る。ポスターでも見てくれる人は見るが、そうでない人はあったこともわからない。隣組回覧も見ないうちに回してしまふ。なかなか良い案が出なかった。

○委員長

男性の料理につきましては、市役所で男性料理教室開いてほしい。どこも料理教室やっているがなかなか男性が入る余地がない。入ったとしても高齢者で、現役の働き世代の方が入れる時間帯で機会を考えたときは職場におけるアクションともリンクしてくるが、どこか企業とかで企画していただくと良いわけだが、その前に市役所から農林課からという意見が出た。やってみようというアピールを実施していただくところからだと思う。

それから家庭におけるアクションの周知についてだが、レシピの公開ということで、結構今料理する時にスマホで検索して料理を作る。それで調味料の量とか調べるので、そういったところに長井市のレシピを公開するのはどうか。食品ロスについては、残り材料から作れる料理教室とか、郷土料理については、アレンジメニューということで、菜なぼーとに売っているけれどどうやって食べるのという疑問に対してのQRコードなどをつけて、そこからレシピに飛んでアレンジメニューが見られるようにしたり、菜なぼーとで買う時に、QRコードシェアして食べ方を調べてから買うという誘導方法もあるのではないかとということで、長井市のレシピの公開とQRコードの配布などがあるのでは。

あと、それから健康カレンダーに食育を載せるというのは現行のカレンダーの情報欄はものすごく多すぎて、その中に食育の日と書いてあってもほとんど見ない。ごみの日を見るぐらいだという意見がありまして、もし可能ならば食育のカレンダーを作ったらどうか。食育だけで作るのが厳しかったら、例えば黒獅子のカレンダーなどに今日は冬至の日なので小豆かぼちゃを食べましょうとか、食育的な要素を入れてもらったりする。無料配布できるような予算は多分ないと思うので、すでに売り物としてある中にさりげなく食育情報を入れるなど、配布されているカレンダーを利用する。或いはどこか企業で作っているものなどに協力協賛してもらって何月何日は何の日、スイカのおいしい食べ方などを入れてもらっても良い。今、冬至とか大寒とかカレンダーに載せてないところがあるので、そういったところに載せて、こういうもの食べましょうという提案ができれば、食育の発信になる。

あとそれから予算次第でしょうけれども懸賞クイズなどして、正解した何名様に、地元の野菜をプレゼントするので取りに来てくださいというのであれば、あまりお金をかけないでもできるし、そういうクイズとなるとみんな見て、ちょっと難しいこと書いてある記事を読んで、常に答えたりしてもらえるのかなという、少し遊びですね。楽しいアイディアが出た。

○委員

結構周知の方法について中心の話題になりまして、食に興味がある人に言ったら失礼だが、全く興味がない人には効果がないのではないかと。例えば一人暮らしの男性とかに、こうした方が健康的ですよと言っても、私の同級生でも何を言っても聞かない人はいる。その人たちはもう自己完結していて、自分たちのこれからについても自分たちでやっていくんだと意志を固めてる人たちなので、そこに働きかけをするのは無駄とはっきり考えればいいと個人的に思っている。では、これから食育について一生懸命やっていくとか、考えていかなければいけないところに焦点を当てるとすると、今まで子どもたちをしっかりと育て上げてきたおじいちゃんおばあちゃん、それから、これから子どもたちを育て上げるお母さん、お父さん。結局は家庭を持っている人に、食について意識を持ってもらう必要がある。ではどこで目を通すことができるのかと言ったら、さっきあやめレポとかいろいろ出たが、大変申し訳ないが私はここに来るまであやめレポは知らなかった。あとこういうことをやっていること自体も知らなかった。どこかの待合室とかにポスターが貼ってあったとしても、見る人は見るけど私だったら携帯を見て仕事をしているとか、ニュースを見たりツイッターを見たりして目に入らない。

強制力を持たせるような形にするのであれば、幼稚園、小学校、中学校の学校の配布物がそうだろう。子どもが全然配布物出さないからこないだ束で出てきたという話もよくあるが、基本的にはみんな学校からこうだと言って言われたものをお母さんお父さんに出して、バス時間や部活の練習日とか、あとは給食だよりとかいろいろお母さんに見せる。こちらとしても見なきゃいけないわけですよ。学校のことを全部把握しなくてはいけない。だから学校からはそういう強制力がある。子どもたちが持ってきたことで家庭が変わったとして、子どもたち自身の意識も変えるには、学校では校内放送が必ずある。今日の献立、今日の誕生日とか、北中しか知らないが放課後になったら音楽も流れる。そういった形で義務教育の中で洗脳していく。例えば、ニキビが気

になる思春期の皆さんにはこれを食べるといいとか、炭水化物を取らなかったり朝食をとらないでダイエットしている若い女性の皆さん、そういった形で痩せるのはいいけど便秘になったりするよ、健康について、食べ物について、みんなで考えていかなきゃいけないよっていうのを、毎日もしくは週1回ぐらい学校で放送することによって絶対に聞く。洗脳されれば、洗脳された社会人が20年30年後にここの地域を作っている。もしかしたら、長井市からカップラーメンが消えているかもしれない。そういう方法もあって良いのではないかな。

○委員

何か食育の取り組みを口ずさんで紹介できるものが欲しい。こういう取り組みをしていることを紹介するのも大事だが、このアクションをする上で子どもというのは耳から入ったものを覚えやすい。遊びで覚えやすいのでまずはもう子ども自身を変えたいなら、歌遊び手遊び、かるたとか、栄養士会でもかるたやランチョンマットとかも作っているの、そういうものもしっかり活用していただいて幼児には遊びから入って。こういう取り組みをしますよというのは後付でもいいので頻繁に耳に入れさせる。お年寄りには配布物とか見るので、高齢者向けには配布物が良い。私たち親世代は興味があって見るので、世代別、男性は料理教室とかどういう風にでもなるので大丈夫かなと思うが。意識づけできるところから続けていって、こういうことしてたんだなと後でわかってもいいのかなと。

○委員長

子どものために学校でCMを流す感じで。

○委員

せっかくランチョンマットが栄養士会で作ってらっしゃるので、幼稚園で給食を食べる時にトレイの上に敷いて今日は何なんだってわかるような、絵で載ってるようなものを、小学校や児童センターとかで出せば、今日食べたのはこれだなあとわかる。毎日目に触れさせていると子どもの意識も変わるのではないかな。せっかく作ってらっしゃるので活用させていただけると。とにかく目や耳に触れたり五感をうまく活用する。

○事務局

3歳児検診でランチョンマットは全員に配布している。ご家庭にはほぼある。

○委員長

児童センターには。

○事務局

児童センターにはないので、家からと学校や園からの両方に配布ということか。

○委員長

家から持ってきてというよりも学校に置いておいたほうが持ち帰りすることもない。

○委員長

先ほど、どうしようもない一人暮らしの男性の話が出たが、その人もいつかは医者さんに行って、ちょっと食生活が・・・と言われるときが来る。病院で食べ物について言われた時に、チラシなどももらえるものがあるとそこで意識ができるかな。

○委員

日本の食について意識がないという人は同じ世代でも結構いる。結婚して子どもを授かったときに、意識が180度変わった人が多いので、結局何かのきっかけがなければ人は変わらない。病気になったとき以外では男性の意識を変えるのは難しいかも。

○委員長
検診で情報をもたらってくるとか。

○委員
もう結構もらっていると思う。

○委員長
やっぱり自分が本気でマズイという状況にならないとそういう情報を取りに行かないので、お医者さんからというのは良いと思うが。市内の開業医のところにとちょっと置かせてもらうかお医者さんに配ってくださいという簡単なチラシを作ってもいいのでは。

(3) 今後のスケジュールについて (当日資料) 事務局より説明

○事務局
今回もたくさんご意見をいただいたため、次回の策定委員会をパブリックコメント実施前に開催した方が良いか検討いただきたい。

○委員長
事務局では次回をどのようにした方が進めやすいのか？

○事務局
今回、数値目標についてもご意見をたくさんいただき、再度持ち帰って検討する必要もあるため、開催を予定より早めてパブリックコメント前にもう一度お集りいただきたい。

○委員長
では、そのような日程で進めるということで、委員の皆さんはご都合を帰りに事務局へお伝えください。

5 その他
特になし

6 閉会

以上